

---

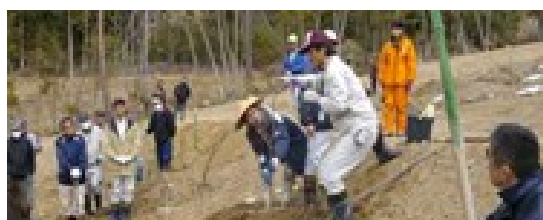
平成 26 年

# 4 月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 活力ある新産地づくり

### 恵那農林 ■クリ 進む「笠置山栗園」整備 ～6ha余りに園地拡大！新たに900本の植樹～

恵那市中野方町のグリーンピア恵那跡地では、平成22年度から「笠置山栗園」を整備し、3年間の市営事業造成分3.7haに1,000本弱の苗木が植栽された。昨年度からは県営事業による造成が始まり、この春、第1期造成分2.6haの完成を受け、さらに900本の苗木が植栽された。

4月5日には笠置山栗生産組合主催による記念植樹式が行われ、恵那市長をはじめ、組合員、地元の住民・子供達、JA・市・県等の関係者約150名が参加し、350本の苗木が植えられた。

今後も造成は続き、最終的には約20ha(市営3.7ha+県営16.2ha)の園地が整備される。なお、栽培管理は生産組合が行っており、初年度の植栽分は今秋に初収穫を迎え、経営計画樹立を進めながら法人化も目指す。

農業普及課では、園地整備の構想段階から地域の合意形成や生産組合設立の支援、苗木植栽や幼木管理等の指導を行ってきており、今後も栗園整備と生産組合活動を支援していく。

### 中濃農林 ■ゆず かみのほゆず産地戦略会議を開催

農業普及課では今年度より3年間、関市上之保地域の特産品であるゆずを新産地づくり地域活性化推進事業の1品目に位置づけ、「ゆずの里 上之保」の地域づくりを推進する。4月21日に、ゆずの生産、加工、販売までを一貫して担っている「かみのほゆず株式会社」と産地を支援する関係機関で産地戦略会議を開催し、かみのほゆず産地育成計画を策定した。産地育成計画に、産地の現状と目標、課題のほか、各関係機関の役割と取り組み計画を明記し、今後はこの産地育成計画に沿って産地づくりを推進することで合意を得た。

### 下呂農林 ■スイートコーン スイートコーン研究会の開催

下呂地域の新たな特産物づくりを目指して、農業普及課は、市、JAと連携して生産者の技術向上、情報交換を目的とした「下呂市スイートコーン研究会」の第1回会議を4月25日に下呂総合庁舎で開催した。

研究会にはスイートコーン生産者が27名参加し、栽培技術の基本や難防除害虫のアワノメイガ、鳥獣被害対策について学んだ。

今後は、研究会の会議を3回程度開催する計画であり、スイートコーンの生産技術向上に加え、産地化に向けた検討も行っていく。



【植樹指導を行う普及員(上)と植栽作業(下)】

## 売れる農畜産物づくり

### 岐阜農林 ■営農指導体制強化 JA営農担当者向け青空教室研修会

4月14日、JAぎふアグリパークにおいて、JAぎふ全ての営農指導員の技術向上を目指し研修会が開催された。農業普及課からは育苗及び本田での初期管理について説明した。特に、昨年発生した問題(出芽不良や細菌病)の予防について重点的に指導した。6月にも第2回目の研修会が予定されており、本田病虫害防除や気象に対応する穂肥施用等を中心に営農指導技術の向上を図る。



【育苗研修会】

## 郡上農林 ■エゴマ **エゴマ生産組合の発足 ～高品質安定生産に向けて～**

郡上市明宝では、4月11日に組合員6人により「明宝エゴマ生産組合」が発足した。

明宝でのエゴマ栽培は、平成23年に1名がエゴマの栽培を始め、獣害を受けにくい品目であることから、平成25年には4名に増え、約700kgを加工業者に出荷することができた。

農業普及課では、今後はさらに需要が見込めると判断し、生産者と共に地区内の農業者に呼びかけ、新たに2名の栽培者を確保し、今回の組合設立へとこぎつけた。栽培当初から栽培技術指導及び販売面で関わってきたが、今後も、エゴマの高品質安定生産、有利販売に向けて支援していくこととしている。



【設立総会】

## 戦略的な流通・販売

### 揖斐農林 ■茶 **平成27年開催の「関西茶業振興大会」に向けて**

第68回関西茶業振興大会が、平成27年、揖斐川町を会場として開催される。揖斐地域では、生産者組織を中心に、一等一席農林水産大臣賞及び産地賞の獲得を目指し、関係機関一丸となって茶生産振興に対する重点的な取り組みを始めた。

農業普及課は、揖斐川町桂の現地茶園において、生産組合、県関係課、農業技術センター、揖斐川町役場、いび川農協等の参集の下、4月で3回の研修会を開催し、生育状況や管理状況の確認、今後の圃場管理、作業工程を協議・検討した。月末には全農岐阜県本部、県園芸特産振興会を加え、摘採が行われる手摘み茶園を巡回した。

摘採日を分散させ1組合でも多くの手摘み茶を出品するため、出品予定茶園のうち2ほ場の保温資材設置も全員で行った。生産組合は理事を中心に「前年からの上位入賞」を合言葉に結束が図られ、関係機関も緊張感を持ちながら対応に当たっている。

4月25日には、池田町小寺地区のほ場で「池田町における関西茶業振興大会 岐阜県大会推進協議会（3月17日設立）」主催による「お茶まつり」が開催された。茶生産者がその年初の一番茶を手摘みで祝う毎年恒例の行事と併せて品評会用出品茶の手摘み研修会が行われ、農業普及課が手摘み指導を行った。茶業関係者、関係機関のほか一般公募が行われ、岐阜経済大学との連携により外国人留学生も加わった。光をいっぱい浴びて育ったやわらかな新芽は香味と旨味が豊かな新茶に仕上がりに、イベント等でPRに用いられる。



【保温資材の設置状況】



【摘採間近の出品茶園】



【池田町茶まつりの手摘み】

## 多様な担い手の育成・確保

### 可茂農林 ■新規栽培者支援 **さといもの新規栽培者向け研修会を開催**

可茂地域では、美濃加茂市周辺市町で「せき円空」（美濃加茂里芋振興会）、可児郡市で「土垂、八名丸」（可児里芋生産部会）が栽培されており、可茂管内でのさといもの定植は4月上中旬にほぼ完了した。

可児里芋生産部会は、可児市下恵土で、現地研修会、試験栽培、部会員向けの種いも生産を目的に、可児農業サポートセンターの協力の下、部会員全員による共同管理ほ場の運営を行っている。

農業普及課はサポートセンターと協力し、ほ場運営に関わる様々な技術支援を行っている。

4月7日には、共同管理ほ場の定植作業を行う前に、現地研修会を開催した。農業普及課とJAめぐみの可児農業サポートセンターが定植作業を中心に栽培技術について説明を行った後、参加者全員で定植作業を行った。今回は3月に開催した新規栽培者向け講習会参加者にも呼びかけたところ、部会員以外で2名の参加があった。これから本格的に里芋の栽培を始めようと考えている人たちなので、里芋生産部会は今後数回行う現地研修会を通し、新しい部会員として加入誘導を図っていく。



【里芋共同作業の状況】

### 飛騨農林 ■就農準備支援 就農希望者の夢と目標をかたちに

農業普及課では重点活動の一つとして、来年度就農予定者の就農計画作成支援に取り組んでいる。

就農計画は、就農に際しての経営目標や収支計画等を明確にするために作成するもので、知事認定されると認定就農者となり、新たな地域の担い手として位置づけられる。現在、9月認定をめざして4名の研修生が取り組んでいる。

年明けには、さらに農業大学校生等からの就農計画相談が加わる予定であり、地域農業を担う新規就農者の将来計画作成支援を通して、飛騨農業の振興を推進して行く。



【担当普及指導員と計画作成】

### 農業経営課 ■畜産の担い手育成 農業高校生らを対象に飛騨牛子牛育成研修会を開催

にしみの畜産振興協議会（会長：早野尋司）主催により、4月24日、大垣養老高校において、同校生産科学科生徒14名、子牛生産農家12名を含む36名の参加を得て、飛騨牛子牛育成研修会が開催された。はじめに生徒による「肉用牛に関する研究活動の紹介」の後、中央家畜保健衛生所職員による「飛騨牛子牛育成マニュアルの解説」に続き、畜産担当の農業革新支援専門員が「子牛の育成管理に関する講習」を行った。その後、高校で飼育する繁殖牛、子牛、肥育牛を見学しながら、生徒や農家との活発な意見交換を行った。西濃地域では飛騨牛子牛の生産頭数が拡大している上に、畜産農家での新規雇用が増加しており、今後も農林事務所、家畜保健衛生所、農業経営課（農業革新支援専門員）等の協力の下で、研修会や巡回指導を実施することとしている。



【育成研修会の様子】

## 魅力ある農村づくり

### 西濃農林 ■集落営農組織 営農組合の法人化を支援

平成26年4月16日、関ヶ原町役場で関ヶ原町山中地区を活動範囲とする営農組織の役員を交え、役場、JAにしみのと共に今後の支援方向について意見交換を行った。

当該地区は、今年度「集落営農システムサポート事業」を活用し営農組合の活動を支援していく予定で、営農組合からは当面の目標は「法人化」という意向が示され、今後とも関係機関とともに支援していく。西濃農林事務所としては、地域各層の意向把握も含め支援方法を検討していく。



【営農組合との意見交換】

## 東濃農林 ■ 集落営農組織 **土岐町東部営農組合が設立**

4月14日、土岐町東部営農組合の設立総会が開催された。これまでの活動経過報告や新たな規約、事業計画等が承認され、新しく集落営農組織が発足した。この組合は、担い手9名で組織されたオペレータ型集団で、販売を含めた全作業受託と部分作業受託を行い、飼料用米にも取り組む計画であり、現在進められている圃場整備と併せて規模拡大を図るとともに、将来的には法人化を目指している。総会の後にはJA中央会から講師を招いて記念講演が行われた。

現在、各地区で集落説明会を開催し地権者への周知を図っているが、一年目にどれだけの経営ができるかは未知数で何かと課題も多いが、毎月定例会議を開催しながら解決していく予定である。今後、新しい営農組合が軌道に乗るまで、農業普及課をはじめ関係機関で支援していく。



【設立総会の様子】